

只木ゼミ春合宿第1問検察反対尋問レジュメ

文責:1班

I. 反対尋問

- 5 1. 1頁14行に「X・Y両方にAの死亡と条件関係があるのを否定できないのは共犯関係ある場合である」とあるが、なぜ共犯関係にある場合に限られるのか。
 2. 重疊的因果関係の場合は条件関係が認められるにもかかわらず、致死量の劇薬を入れたという、より違法性の強い行為を行った場合は否定され未遂にとどまるのは、罪刑均衡の点から問題があるのではないか。(1頁34行)
- 10 3. 4頁2行に「他方の毒のみが致命的な作用を持った可能性を否定できない」とあるが、なぜこれをもって合理的な疑いと言えるのか。

以上